

第55号
 発行日：平成26年5月10日
 発行所：
 東京青山同窓会事務局 **新住所**
 〒107-0062
 港区南青山3-8-9-202
 (有)ジェイ・クラブ内
 TEL. 03-3423-3591
 発行者 池 一

東京会報

東京青山同窓会

—東京青山同窓会年間維持費—
 1口 / 1,000円 2口以上(年間)
 会計幹事：佐藤 茂 (77回)
 振込先：三菱東京UFJ銀行・
 江戸川橋支店
 普 1170247 東京青山同窓会
 郵便振込口座 00150-9-4074

平成 25 年度 東京青山同窓会総会 報告

平成25年11月15日(金) 於：ANAインターコンチネンタルホテル東京 白鳥十三 75回

恒例の東京青山同窓会総会は、新潟から長谷川義明会長(61回)、砂田徹也副会長(81回)、富山修一幹事長(75回)、草間俊之学校長、櫻井麻利子先生(94回・校内幹事)の5名をお迎えして賑やかに開催されました。第一部の進行は富山聡仁さん(107回・富山幹事長ご子息)が進められ、総会議事、長谷川会長の祝辞、新任の砂田副会長のご挨拶、草間学校長からは、最近の学内の様子やインターハイのチャンピオンが誕生したニュースなどのご報告がありました。第二部の司会を有蘭順子さん(75回)にバトンタッチし、今回参加者中、最高学年(59回)牛木素吉郎さんの乾杯で幕開けです。途中、古川恒一さん(76回)の著書紹介、石崎徹衆議院議員(110回)の飛び入りスピーチ

ーチと続き、いよいよ当番幹事75回の企画、全員参加で「大ジャンケン大会」の始まりです。(以上事務局)

「はい皆さん!隣の人とじゃんけんします、最初はグー…」壇上には豪華な景品が並んでいる。初戦で敗退した人達にもポストカードなどが配られる。主催の75回生も一緒になって「ここまだ貰ってないぞー」と会場が沸いてくる。勝ち上がるにつれポッポ焼き、新潟弁日めくりカレンダー、三菱一号館美術館入場券、ワイン、篠田市長の著作と徐々にグレード上がっていく。最後に勝ち残った16名は壇上に登り、何が貰えるか興味津々である。当日、84回渡邊さんからのこがね餅セットも加え、ワイン+美術館入場券、高級玄関マット+ガーデニングセット、版画、森

副知事からの中国工芸品など豪華景品を狙う激戦を経て、1番は和田佑さん(121回)、選んだものが版画、2番は会田俊貴君(118回)となり、中国工芸(黒陶)という何とも渋いチョイス。終盤、敗者復活戦という救済策で大いに盛り上がり、活況のうちに終了しました。上品な司会をしてくれた有蘭さん、時間内でピタリと納めた進行役の曾我君はじめお手伝いの皆さん、快く景品を提供してくれた75回有志の方々に厚く御礼を申し上げます。最後にホテル側担当の田邊様には、宅配された荷物の仕分けなど御面倒をおかけしました事に対し感謝申し上げます。(以上白鳥十三・75回)

平成24年度決算および25年度予算

(H25.11.15)

単位：千円

収入の部	24年度決算	25年度予算	備考
前年度繰越金	466	398	
年会費	1,381	1,500	750名
総会会費	636	700	
新人歓迎会・講演会費	547	600	
本部補助金	500	500	
雑収入	5	0	
合 計	3,535	3,698	

支出の部

費 目	24年度決算	25年度予算	備考
総会費	748	900	
新人歓迎会・講演会費	903	950	
事務局費	190	100	
会議費	0	50	
通信費	620	650	
印刷費	606	610	会報年2回発行
振替手数料	70	75	
次年度繰越金	398	453	
合 計	3,535	3,698	

注：24年度 H24.10.1~H25.9.30
 25年度 H25.10.1~H26.9.30



会長挨拶

東京青山同窓会会長 猪口 孝 70回



今春のグッド・ニュースは新潟県立新潟高校から東大に入学した人が20名だったことではないか。新潟高校は半世紀前には現役浪人あわせて10人前後は入学していた。半世紀の間に東大の学生定員は3倍位になっているから、30人位入学しても良さそうである。

しかし、よく考えてみると、公立高校の比重が半世紀の間に激減し、かわって私立高校からの入学者が激増したことがある。私立の有名受験校にはいなければ有名大学はなかなかという感じだった。

高校に入るとき、私立の有名受験校に田舎から潜り込むのが全開したのが1991年のバブル崩壊まで続いていたのではなからうか。その私立高校の猛威がやや減退しはじめたのが、消費税アップの2014年だったのではなからうか。私立有名受験校がこれから激減するわけではないだろうが、公立高校の躍進する余地はかなり残っているだろう。公立高校の躍進はいうまでもなく、一様ではない。それほど元気がない公立高校も少なくない。そのなかで新潟高校が受験本や週刊誌に高くランクされているのを見るのはうれしいことである。

私もそのひとりの70期で現役で入学したのはたったの4人だった。そのうち、今も

元気なのは2人だけである。4人はすべて男性だった。

今年は20人のうち、何人が女性なのか。なぜこのことに興味をもつか。注目すべきは全国的な女性の移住動向である。なかでも20代-30代の女性が田舎から東京へ移住する方が東京から田舎へ移住する方よりも圧倒的に近年多くなっている。

デフレ安定で景気はよくないが、物価水準は安定という状況で、東京から田舎への移住が「失われた20年」増加していたのではないか。それがアベノミクスで価格も上がりはじめ、田舎も安住の土地ではなくなりそうである。田舎では女性により雇用機会が種類も数も少ないのが一重要要因である。

20代-30代の女性が田舎にいなくなれば何が起ころか。人口減少が全国的に進展しているなかで、男性もよい雇用機会と結婚機会を求めて、東京に移住していこうとするのではないだろうか。

新潟高校の東大入学者のこれからの動きはどうなるのか。

101回生同期会を開催して

柳下 史織 101回

母校を卒業して20年経った今年、1月4日、101回生同期会をホテルオークラ新潟において開催しました。学年主任の広野樹先生をはじめ、長谷川潤二先生、柳生正文先生、横瀬功先生、田村仁先生、水上信夫先生、森久先生、宮田新太郎先生をお迎えし、120名を超える101回生が集まりました。子連れ参加ができるようにお昼に開催し、お正月の帰省に合わせたことも功を奏し、全国各地から、遠くアラスカからの参加者もいました。

最初の広野先生のお話で修学旅行中の懐かしい話が出て、我々の気持ちは一気に20年前にタイムスリップしました。乾杯の後、クラスごとに座ったテーブルから代表者のスピーチ、同期で活躍中の三味線プレーヤー、小林史佳くんの演奏と、あっという間に時間は過ぎていきます。クラス、部活、小学校ごとなど様々な仲間での撮影タイムがあり、互いに旧交を

深めることができました。また、クラスや文理関係なく、新しい友人関係を築けたことも大きな収穫でした。

先生方の外見も話し方も当時と全く変わらないお姿を拝見し、先生方が当時のことを鮮明に覚えていらっしゃることに驚くとともに、人生の先輩として改めて尊敬の念を抱くのでした。また、我々が日ごろの仕事や家族の報告をさせていただくと、

我が事のように喜んでくださったのも大変嬉しいことでした。

子育て真っ最中の者、職場で中堅として仕事に邁進している者、不惑の年とは言われますが、様々な分野でそれぞれ悩み、生きることに精一杯です。そんな時に、日常を離れ気の置けぬ仲間と語りうことができたこの一日は、私たちに活力を与えてくれました。これからも同期の絆を大切にしていきたいと再認識し、再会を誓い合いました。その後、東京では早速ミニ同期会が行われたという報告もありました。



84回生は2年毎の同期会を開催し続けます

宮崎 清也 84回

東京青山同窓会の皆様。いつもお世話になっております。

2014年1月2日、新潟市のホテル新潟グランドホテルにて新潟高等学校84回卒業生同期会を開催しました。以下、開催のご報告します。

84回生は1975年3月に卒業し、現在は56歳を過ぎたところであります。卒業以来、はや38年を経過し、還暦に向かって邁進中であります。同期生の中には役職定年を迎えたということで、第二の人生に歩み始めた者や、これを機会に隠居する者や、育児を終え我が時を楽しみ始めた女子もおります。多くの者は現役感を失うこと無く、青陵健児たるを内に秘め、日々頑張っております。

卒業のときは70年の後半であり、二度の石油ショックと外国為替自由化ショックが社会との関わりでの始まりでした。バブル経済の恩恵を感じることがあったのか無かったのか判らないうちに、30歳台を駆け抜けました。思えば、それからは闘いの連続でした。バブル経済の崩壊、阪神淡路大震災、リーマンショック、東日本大震災原発事故に立ち向かい、2014年の今、最後のダッシュに向けて進んでいます。

84回生同期会を初めて開催したのは42歳のときでした。永年応援団長の行田充君が「同期会を開催しねばだめだこて

や」と、先輩諸氏から暖かく脅されたのは、40歳の青山同窓会総会の新年会でした。開催しようにも、現住所確認して名簿を整備がなっていません。高校3年間は毎年クラス替えをしたために、同級生記憶が極めて薄く、まずは始めた名簿整備は難航しました。445名卒業のうち、現住所を把握していた数は僅か97名。1年半を掛けて連絡先の把握に務めました。時代がインターネット、携帯電話メールに移行していったせいもあり、多く同期生の住所把握は電子メールに頼りました。最終的には330名を把握することができました。第一回目の出席者は118名であり、大いに盛り上がりました。

その後も、クラス監事を置くことは無く、住所管理だけを徹底して名簿整備を進め、現在は378名を把握しています。

当初、84回生という数字に因み、8と4の数字の西暦年での開催をすることとしたのですが、2回目同期会開催の席で、

「次回開催までの間に、誰かが先に逝ってしまったのでは悲しいよなあ」という声は胸に響きました。その声に押されて、その3回目は2年の間で開催となりました。実際のところ、残念ながら、2年ごとの開催の間に、先に逝ってしまわれる方がありました。私が元気なうちは2年毎の開催を誓いました。以来10年。2014年の開催は64名の出席でした。会場もいつもの新潟グランドホテル1月2日。開始時刻も毎回同じ午後2時から乾杯。終いは午後7時。料理は午後4時半で終了。ホテルに負担を掛けずローコストで開催を続けています。

今回は、2016年1月2日午後2時乾杯です。皆の元気な顔を楽しみにしています。

還暦の歳に、新潟と東京の中間地点で泊まりの開催、ということ先輩から教わっています。湯沢あたりで開催することになるのでしょうか、果たして還暦開催かな?という気持ちにもなっています。時代は65歳定年です。66歳に泊まり開催となるかもしれません。どうしたらいいでしょうか、皆様に御指導いただけたらありがたいです。



90回・同期会報告

齋藤 彰 90回

平成25年10月13日に新潟シルバーホテル万代の間で「第三回90同期会」が開催されました。今回は天命を知る50歳記念同窓会であり、7名の先生をはじめ総勢166名(女子45名)が出席した盛大な宴となりました。当日は幹事さんの粋な計らいで、12時半の開会から17時半の閉会まで同一会場で、中断すること無く十分な時間をとり十分に旧交を深めることができました。恩師の近況報告では上杉先生を始め其々の先生が澁刺とした引退後の生活を送られているこ

とを知り、その「雄々しい若さ」に一同驚き、いつまでも目標の師である実感しました。また、6月には上村長生先生のご逝去があり、闘病中の「手紙のみ」のやり取りを通じたお話や、また、50歳を迎えた我々へ「心の奥底に響き渡る激励」も伺うことができました。どの先生のお話も忘れられない思い出になりました。終盤の青陵祭と文化祭映画の上映では、皆がそれまでの話を中断して見入っ

ていました。最後は壇上で応援団とラグビー部が「丈夫」をリードし、百名を遙かに越える全員が斉唱して会を締め、一生記憶に残る思い出となりました。



第18回東京青山玲瓏会 ゴルフ大会

村山 隆男 68回

当初10月開催の予定でしたが、組数が8組と多かったせいか、11月21日に開催がずれ込んでしまいました。参加者募集当初は8組、32名が直ぐ満杯になってしまい、キャンセル待ちが出るほどでした。しかし、やはり11月にずれ込んでしまったせいか、開催日が近づくとつれ、風邪が長引いたり、検査入院が入ったりとキャンセルが相次ぎ、な

んと、最終的には参加者が25名となり、8組から7組へと縮小を余儀なくされてしまいました。おまけに、高速道路が込んで、スタート前の記念写真撮影も全員が写ることが出来ませんでした。

当日は抜けるような空の青さの下、風も無く絶好のゴルフ日和でした。優勝は、はるばる新潟から駆けつけた68期の田中宣男さん、準優勝は、2回目の参加になる69期の矢川一義さん、3位には、83のベスグロで廻った68期の渡邊千艦さんが入りました。ドラコン賞になんと市川、岡田の女性2名が入ったのは

素晴らしい事でしたが、男性陣の奮起が促されます。又、ただ一人80歳超えの59期遠藤欽蔵さんが7位入賞という快挙、そのお元氣振りには只々脱帽です。

今回は4月中旬に再び若洲で、しかも8組の参加を目指して、と大いに盛り上がり散会となりました。



東京青山柔道部OB会 活動報告

成海 孝二 81回

昨年10月、総会を霞ヶ関ビルで開催。

7月の参議院議員選挙で見事再選を果たされた佐藤信秋会長(74回)の御祝いと激励を兼ね、新潟本部の立川克雄会長(72回)、当会の村山健副会長(61回)はじめ14

名が参加、大盛會。また、今年2月、福田満副会長(58回)ほか有志が、南スーダンから帰国のコンサルタント梅田典夫先輩(72回)の報告に目から鱗が落ちる思い。そして3月は加藤稜大君が日本武道館の全国高校柔道選手権に81kg級新潟県代表として出場、惜しくも初戦敗退、熱き声援の継続を誓い合う。



写真左より：成田昌徳(82)、村山健(61)、立川克雄(72)、堀清忠(71)、内田定寛(66)、名塚聡(89)、佐藤信秋(74)、齊藤俊正(72)、吉田真吾(85)、長田充(91)、豊田清(83)、磯部晃人(87)、上杉恒彦(92)、成海孝二(81)

サッカー部創部65周年 記念祝賀会

佐藤 茂 77回

1月4日午後5時開会、新潟グランドホテル、新潟高校のサッカー部創部65周年記念の祝賀会に出席してまいりました。恩師の先生方を始め、65回卒から116回卒まで、70名近くの皆さんが出席し盛大に開催されました。

一昨年のお酒の総会で、今回会長に就任された、江口先輩から「今度、創部記念の会合をやるから来て欲しい」とお誘いが有り、私は東京から勇んで参加してきました。

総会も兼ねた今回の祝賀会は、役員交代、規約の改正という議事もあり、その後祝

賀会となりました。また、この祝賀会を記念して、母校のグラウンドに「シューティングボード」を寄贈することができ、目録の贈呈式も行われました。映像で会場に映し出されると、歓声が沸きました。

祝賀会では初めに星野先輩から、創部のころの東京青山同窓会でもお元気な花井進先輩のご活躍、またワールドカップの新潟での開催のいきさつ等の話もあり、新潟高校のサッカー部出身者の活躍の一端を紹介して頂きました。乾杯の後、懇親会になり同期の4名とはもちろん、色々教えて頂いた先輩方とも45年ぶりに再会をすることが出来ました。

特に先輩の方々は、すっかり様子の変わった方ばかりで、座っているはずのテーブルに

赴き、ネームプレートを確認して、おっかなびっくり、声をかけさせていただきました。

「先輩が誉め上手で、ヘッドニングが上手い、と言われたので、練習についていきました」と、在校時代の御礼を申し上げると、「佐藤はすぐ分かった」と、嬉しい言葉を掛けて頂いたり、有意義な一時をすごすことができました。



卒業4年目を迎えて

会田 俊貴 118回

平成22年春の卒業から4年の歳月が流れ、私たち118回生の多くも、進学に、あるいは就職に、再び大きな節目を迎える時期になりました。ここで、学生生活を送るうえで役に立った、新潟高校で身につけた技能について振り返ってみたいと思います。

まず第一に浮かぶのは問いかける姿勢です。「勉強すればするほど分からないことが増えていく。質問することは恥ずかしいことではない。」これは私の中で最も印象に残っている、ある先生の言葉です。新潟高校の先生方は、ただ知識を教えるにとどまらず、

生徒が発展的な問いかげができるような授業をしてくださりました。大学に進み、この先生方の配慮のありがたさを深く感じました。大学では自ら書を読まず、師に問わず、友と議論せず、ただ待つばかりでは有用な学識は身に付きません。指導要領のない社会に出るうえで必要な、自ら学ぶ能力の重要性に気づけたことに感謝します。

次に浮かぶのがチームをまとめる技能です。新潟高校最大の行事は何と言っても全員参加の青陵祭です。連合100余人が一致団結する経験は他では味わえないものです。しかしそこに至る道筋は平坦なものではありません。全員参加だから必ずしも全員の意欲が高いわけではない。また意欲が高い人同士では熱心なゆえに意見の対立が起こる。

しかも準備期間は4月にクラスがわかってからの約2か月。この制約の中で1つ1つ自分たちの力で課題に対処する力が青陵祭で得られる最大の力ではないかと思えます。

問いかける力、チームをまとめる力、新潟高校で得ることのできる力は他にもまだまだありますが、挙げはじめたらきりがありません。振り返れば、教育目標にもある、「社会に貢献できるリーダーシップを養う」ための機会がいたるところにありました。

卒業後4年を経た今、再びその価値を知ることとなったこれらの力を一層伸ばし、社会有為の人材となるべく、一層の精進を重ねたいと思います。

震災地たずね歩きレポート
その2

星野 紹英 84回

一年前の本会報誌に1回目のレポートを投稿し、今回はその続編で、宮城県の女川町から気仙沼市までの155kmを4日間（1泊2日×2）で歩いた見聞録をお伝えする。

【2013.05.24】女川町→石巻市雄勝町=歩数59651、推定42km。

津波に流され跡形もない女川駅近くの代行バス停から歩き始めて1時間半、女川町北浦地区の御前浜（おんまえはま）に差し掛かり、視線をふと上げて目の光景を見た瞬間「戦慄が走り」、同時に「夏草や兵（つわもの）どもが…」の芭蕉の句が脳裏をよぎった。なぜ「戦慄」が走り、なぜ「芭蕉の句」がよぎったのか…。あとで自己分析すると、実際はたった2年余りなのに、芭蕉が詠んだ平泉くらい長い年月（藤原三代→江戸時代）の荒廃を思わせる光景だったのではないか…。

平成17年に石巻市に合併した周辺6町の一つ旧雄勝（おがつ）町地区の中心市街地は雄勝湾の最奥部。だが、建物はほとんど残っておらず、遠くから2つの建物が一際目に付く。三角屋根の雄勝硯伝統産業会館と雄勝小学校舎。周辺で産出する雄勝石を使った硯の生産がこの地場産業。また、小学校舎跡は、なぜかこの震災地歩きで度々見かける。

「えっ、千羽鶴!?あっ、藤の花か…」道ばたの満開の藤の花を見て、この花が実は千羽鶴に似ていることをこの日初めて知った。
*この日の折り句一題、題して「雄勝石（おがついし）」

今もなお 小学校舎が 立つおがつ 三つ子のたましい 忘れぬあかし

【2013.05.25】石巻市雄勝町→南三陸町戸倉=歩行時間10時間26分、歩数64606、推

定44km。

雄勝町から、やはり同時期に石巻市と合併した旧北上町地区へ入ると間もなく、悲劇の舞台大川小学校。新北上大橋の土手から見ると「それ」しかないの一目で分かる。今私が立つ足の下が、教師が誘導しようとした「北上川堤防三角地帯」のようで、なぜそこへ逃げなかったのかという裏山は、確かに校舎のすぐ後ろに迫っている。新北上大橋を渡ると北上川河口に向かっての約1時間の土手歩き。中州のような地形に、まさに「吹きさらし」の風が真っ正面から吹きつけ続け、全く収まる気配がない。体温を奪われ続け、この先数キロ以上全く変わりようなない景色を見て、「いつまで我慢すればいいんダ」と思わず叫びたくなる。吉浜小の体育館は、壁板が完全に突き抜かれて格子だけが残る。津波で壊滅した鉄筋の北上支所は、この海側にあり57人中生存3人だったという。小さな焼香所があった。

南三陸町との境に近い旧北上町の相川集落で衝撃的な光景に出くわす。相川集落の上を越えていくはずの橋が、つけ根部分から完全に切れ落ちている。まだこんな所があったのか、と改めて復興の遅さを実感。この地の復興はまずこの橋の再建だろう。

*この日の折り句一題、題して「新北上大橋」

新たなる 北の一步は 上を行く 大きな道の 橋の再建

【2013.12.29】南三陸町戸倉→気仙沼市本吉町=歩数54621、推定38km。

赤い鉄骨の骨組と白い非常階段、それに屋上のアンテナだけが不自然ともいえるくらい完璧に残る。その頑健さが、南三陸町防災庁舎が3階建てであったことだけを悲しく伝えている。声の限り命の限りを尽くして、津波にのみれる瞬間まで女性職員が防災放送で避難を呼びかけていたという空間は虚しく突き抜けている。この日最大の注目スポット南三陸町防災庁舎跡は、保存／解体で揺れているという。かつての玄関前に献花台。私も他の訪問者とともに手を合わせた。周辺はこの町で一番の市街地だが、広い平地を隔てた先の斜面に学校などの建物が見えるだけで、志津川駅も流され跡形もない。

歌津駅のある南三陸町の第二の街伊里前（いさとまえ）地区。ここは比較的狭い地域で、斜面中腹の長い

ホームの歌津駅の姿が視界に飛び込む。この地区を一直線で突き抜ける国道45号線の高架橋、歌津大橋は津波で橋桁5～6本だけ残して道路は完全流失したという。その地に「復興」を文字った「幸福商店街」が立つ。

気仙沼市に入って、陸前小泉駅近くで黄昏時特有の妖しい光を浴びて波打ち際に立つビルを発見。後で調べたら、「南三陸シーサイドパレス」という、1980年代に廃業したホテルだという。津波に耐えた貴重なビル、この先どうなるのか。この地区は猛烈な津波の被害に遭いながら、子供の犠牲者がゼロだったという。

*この日の折り句一題、題して「みなみ三陸町」

み渡せば なみが洗いし 三度四度 陸地はハダカ ちょう舎骨だけ

【2013.12.30】気仙沼市本吉町→気仙沼駅=歩数42395、推定29km。

前夜泊まったペンションから約1時間、震災前、付近の一大行楽地だった大谷（おおや）海岸に到着。海岸線は防潮土嚢とテトラポッドが一大整列。東の端には旧大谷海岸駅と再開された道の駅。かつての駅のホームには「あの日を忘れない」と書かれた献花台。部分的にホームと手すりが残るだけでそれ以外の構造物はない。「大谷海岸駅」であった証しを探すと、ホームの片隅の足下に残るペイントを見つけた、[WELCOME @OYASTATION] (@は魚のイラスト)。

「高さ9.8mの防潮堤の工事は始まっていた!」大谷海岸からそのまま海岸線を歩いて行くと突然目の前に現れた。緑から数十mの所に家が建っている崖地で、海水浴場の砂浜に高さ10mの防潮堤を作るのとは異なり、ここでは護岸とも呼べる構造で景観に与える影響も小さい。大谷海岸では反対運動が起きているというが、ここで建設が始まった理由は地理的要因の違いなのだろう。

お伊勢浜海水浴場、震災以前「快水浴場」と呼ばれていたというが、今は津波に洗われた公衆トイレが寂しく佇むだけ。その近くの波路上（はじかみ）杉ノ下地区で「絆」碑に出くわす。碑文は「あなたを忘れない」という詩。地震1周年に建立。年2回避難訓練をするという意識の高いところであったが、周辺で一番の高台であるこの地の避難所でも津波に襲われて93人が亡くなったとのこと。

*この日の折り句一題、題して「けせんぬま」

月日かけ 昔に戻せ 海岸せん すぐには 帰らぬ 大谷の砂はま

*震災地歩き通算265km。



南三陸町防災庁舎、必死に避難を呼びかけた女性職員が津波に呑まれた

平成26年 新人歓迎会・講演会のご案内

日時 平成26年6月20日(金)

受付開始：午後6時
開会：午後6時30分

会場 ANAインターコンチネンタルホテル東京
港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111(代)

会費 一般：8,000円
女性：6,000円
大学生：3,000円
新人(122回生)：2,000円

プログラム
◇新人歓迎会◇
旧3年の担任教諭がご出席予定です。
◇講演会◇
講師：緒方俊雄(84回)
◇懇親会◇
着席ブッフェ

122回生
新入の皆さん
お待ちしております!!

122回卒・新人の皆様へ
新住所の届けのなかった方については自宅へご案内を送付しました。転居先のご連絡を事務局までお寄せ下さい。【事務局FAX.03-3423-1692、mail:kusakabe@moon.email.ne.jp】

講師紹介

緒方 俊雄 (84回・SOTカウンセリング研究所所長)

【講演テーマ】 「大学時代をいかに生きるか」

【略歴】早稲田大学理工学研究科修士課程修了。ソニーにて、研究開発、企画、マーケティング、カウンセリングなどの業務に従事。その後、EAP機関所属のカウンセラーを経て、現在、SOTカウンセリング研究所所長。臨床心理士、産業カウンセラー。心理カウンセリング、メンタルヘルス関連の講演、研修、執筆などを行う。著書に、『慢性うつ病は必ず治る』(幻冬舎新書)、『勝ち組の男は人生で三度、挫折する』(中公新書ラクレ) などがある。



この度、新著『すぐ会社を休む部下に困っている人が読む本 それが新型うつ病です』(幻冬舎新書)を上梓いたしました。

本書では、企業で若い人にみられる新型うつ病とはどんな病気なのか、どうして新型うつ病になるのか、カウンセリングでどうやって新型うつ病を治すのか、家族や職場の人は本人にどのように対応したらよいのかをまとめました。

新潟高校の恩師石黒明徳先生から「この本はうつ病に関係する人のみの本ではなく、子どもを育てている親や小中高の教員にもぜひ読んでほしいものと思います。人間が成長していくための立派な応援歌になっていると思います」との嬉しいお手紙を頂きました。



最新刊

緒方俊雄 ogata@sot-lab.jp

平成26年 総会のご案内

日時 平成26年11月7日(金)

受付開始：午後6時
開会：午後6時30分

会場 ANAインターコンチネンタルホテル東京
港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111(代)

会費 一般：8,000円
女性：6,000円
大学生：3,000円

プログラム
◇総会議事◇
会務報告・会計報告など
◇懇親会◇
着席ブッフェ
アトラクション

幹事学年：76回



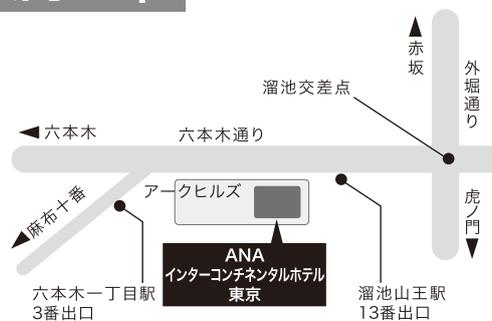
■ 訃報 ■

H25年10月～H26年3月の期間に事務局にお知らせいただいた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

五十嵐富郎 (41回・H24/5月)
橋本定省 (51回・H25/9月)
本間俊典 (53回・H25/7月)
小黒八七郎 (55回・日付不知)
石崎和雄 (56回・H25/1/6)
宮田和明 (56回・H25/9/4)
野村慎三 (59回・H25/5/27)

皆川潔 (59回・H25/6/29)
笠原桓男 (61回・H24/2/27)
長谷川耕一 (61回・H25/5/8)
谷田部信 (61回・H25/6/7)
伊藤芳生 (63回・H24/7月)
中野晴文 (71回・H25/6/29)

共通会場案内Map



最寄り駅

銀座線・南北線【溜池山王駅・13番出口】
南北線【六本木一丁目駅・3番出口】

路線バス

都01系統/新橋駅～渋谷駅
【赤坂アークヒルズ前】下車

事務局通信

住所リスト出力サービス

当同窓会では、皆さんからの情報を元にデータベースを更新しております。「同期会開催のための住所録」が必要な方は事務局までお尋ね下さい。学年毎のリストをご提供いたします。ご希望の卒業回数を明記し、代表者の連絡先・送付先を書き添えて事務局宛 FAX. またはメールをお送りください。FAX. 03-3423-1692 mail:kusakabe@moon.email.ne.jp (日下部・82回)

■住所リスト1学年/3000円■

偶数月第二火曜日の会 (申込み不要・有志の飲み会)

H26//6/10・10/14・12/9 H27//2/10・4/14・6/9
毎回定時19時より◇日本海庄や(赤坂通り店) 港区赤坂3-13-7
Tel:03-3586-5003
場所も時間も固定です。ふらりとお立ち寄りください。

Web サイト

◇本部◇ <http://www.aoyama-dosokai.com/>
◇東京◇ <http://www.tokyo-aoyama.org/>

平成25年度 (H25.10.1 ~ H26.9.30) 年会費納入者一覧 (H25.10.1 ~ H26.3.31 現在まで)

通6回 (1名)	浅田秀雄	朝日明	柄沢茂	薄田詔二	金巻裕史	木戸守	片山等	田中昌夫	小橋川嘉樹
関川久子	片桐欣哉	安宅久憲	川崎明	上村嶺子	黒木トシ子	小泉慈行	北村一雄	野口俊介	富山聡仁
通13回 (1名)	大門啓治	阿部垂生	近藤恭一	草野佐	小嶋修一	後藤輝雄	桜井宗一	埴昌樹	110回 (1名)
角田恒子	田中浩次	安藤友憲	齊木幸彦	小林勲	小林正昭	斎藤章二	佐藤茂	星野紹英	石崎徹
46回 (1名)	永井克孝	稲垣甫玄	坂井俊一	小日向信光	近藤正	曾我正男	秋野一廣	渡辺裕	113回 (1名)
下勇	59回 (24名)	河井良三	坂井敬	近藤貞雄	齊藤俊正	白鳥十三	長谷川実	85回 (5名)	関佑樹
48回 (1名)	阿部進	川崎榮一	清水裕子	重野康人	富田由李	野崎茂	78回 (11名)	今井豊重	115回 (1名)
石本三郎	石山芳昌	木村政雄	清水良男	須磨美博	中地光子	橋爪博美	伊東真知子	田中研一	本井典子
49回 (4名)	板井裕	草間光俊	須田嶺治	滝沢猛	野村耕治郎	服部昭	太田秀樹	田村誠	116回 (3名)
中村廣徳	牛木素吉郎	熊谷隆幸	高橋正幸	竹石肇	古山恒夫	馬場俊博	斎藤康之丞	中嶋浩一	遠山優香
仁保武人	内田進一	小林元雄	高見浩	田村武次	73回 (6名)	萬歳信行	志藤洋子	森大輔	馬場直也
濱博世	遠藤欽蔵	小山達人	田辺元彦	長沼誠二	阿部裕	深沢義和	篠田敏朗	86回 (5名)	本間友香理
廣川弘	岡田久	斉藤伸昭	田伏正樹	渡邊公夫	飯村修	藤井建一	瀧澤道夫	佐野晴美	118回 (2名)
50回 (4名)	奥村繁樹	杉山由人	田巻亮	渡部治子	鈴木厚人	藤縄利勝	前田長生	乘兼浩明	会田俊貴
上村光司	園城英二	助川孝雄	田村康一	69回 (8名)	田辺研吉	八木健	松本洋	林光洋	和田直子
苅部一郎	笠井駿	竹尾昇	中山徳彦	青木利祐	山田美成	山崎信行	水野秀樹	広田淳子	119回 (1名)
寺田秀夫	菊池裕	田中宣	西野貢司	小黒朋弘	両川弘道	山根英郎	吉澤哲彦	吉井正行	今井周作
村山一	河野誠	田中忠夫	早川周作	清水隆	74回 (31名)	吉村久雄	渡辺茂	87回 (3名)	120回 (4名)
51回 (3名)	茂泉喜彦	時岡泰	星満	菅沼浩	藍沢幹人	76回 (34名)	79回 (4名)	清水忠明	伊藤学
梶井功	洪木幸三	徳田晋也	真壁日史郎	高木敏之	青海潔	青山耕一	小田章治	南正人	岩崎琴
北村茂	高橋晴夫	長沼雄峰	榎湯晴夫	樋口正臣	安藤京子	浅妻厚	河正子	渡辺政城	佐伯まどか
千葉繁太	高橋正利	中村正春	吉川要輔	村上則彦	池一	安達修	川上康夫	88回 (2名)	宮本真理子
52回 (5名)	高山昇二郎	藤田太郎	65回 (11名)	矢川一義	石井拓男	板羽健	丸山直昌	小竹聡	121回 (4名)
浅田稔	長島一郎	村岡公夫	安藤宜清	70回 (16名)	和泉潤	海老豊	80回 (4名)	諸橋博樹	青木雄佑
阿部穆	長橋敏雄	村山健	五十嵐徹	池田好正	五十川チイ	小田高久	長正子	89回 (7名)	内山健
斎藤茂美	納谷喜郎	62回 (15名)	川合英次	猪口孝	板井勉	尾張明美	小林亮介	伊藤孝憲	古俣雄大
斎藤泰五郎	花井進	池田昌之	小林亘	魚谷茜	伊藤宏	海部和史	竹本泰子	岩野尚子	長谷川巧
廣川勲	藤原幸雄	石黒恒	清水澄	岡田利邦	井上裕子	加澤正樹	長沼正昭	倉田裕一	
53回 (3名)	山吉一成	石崎富士臣	高木正道	川田昌人	岩城修平	賀谷彰夫	81回 (7名)	小山信也	以上465名
中山政夫	吉田陽吾	石田寛	中谷一泰	斎藤健輔	江口則男	木下正仁	荒川洋	下川尚	
堀時男	60回 (23名)	石本悦夫	本間英男	菅原一雄	大石憲一	久住治	五十嵐和幸	瀧川久孝	
盛山淑郎	阿部和彦	内山隆之	山田寛	鈴木正俊	大滝均	蔵持典与	笹川典男	長谷川雄一	
55回 (1名)	池浦厚司	角家孝之	山本和親	関根俊明	岡村康生	後藤徳広	諏訪正樹	90回 (12名)	
千葉繁治	石黒忠士	小池健治	横山修二	野川晃一	糟谷好邦	小松澄子	成海孝二	池田美弥子	
56回 (19名)	入山文郎	佐藤勝彦	66回 (6名)	福島治	工藤義夫	小宮山信男	山田徹	歌代真人	
赤坂長弥	内山真一	佐藤武司	阿部三男	山宮士郎	解良和郎	近藤壽邦	鰐淵博	木村和人	
朝比奈和三	笠原功	鈴木勉	稲月喜一	吉川正孝	坂井靖	曾田修吉	82回 (7名)	小林到	
網干道雄	金山常吉	藤井則忠	内田定寛	渡辺允雄	佐藤俊栄	田中邦直	柴森秀一	斎藤彰	
飯島昌彌	河田鐵雄	藤原亨子	川原英夫	渡邊濱介	佐藤信秋	太原まゆみ	清田甚	斎藤結花	
井上菊雄	小林賢一	帆苅宏典	二宮靖彦	渡部美那実	佐藤浩	田村俊作	日下部朋子	高橋美和	
加藤勝則	小林吾郎	渡辺千里	吉田六左工門	71回 (11名)	関川修一	富樫明男	小亦斉	田辺文	
木村直平	近藤純夫	63回 (6名)	67回 (11名)	兩宮孝弘	高橋保	長北学	斎藤滋	中村泰	
小島直孝	斎木守雄	浅野康一	朝妻紘一	遠藤正男	高橋信郎	西沢芳樹	西山活子	原茂樹	
小松重男	坂口英一	市川瑞夫	岡崎功	太田裕	竹之内明	八田進二	宮村伸一	樋口正史	
近藤源也	佐藤孝	白倉至	片山忠一	柄沢卓	土屋彰義	浜田正継	83回 (6名)	森豊	
田村量一	清水悌作	中村道衛	川崎昌彦	齋藤誠	西田百合子	林誠	浅間芳朗	94回 (2名)	
永井喜八郎	杉野剛博	皆川守	北村紘一	高橋稔	西脇雄一	古川恒一	遠藤光郎	渡辺健司	
中山昭一	田部幸夫	村山弘義	斉藤久美子	西尾レン	三田村健一	細谷洋一	佐野栄二	海部真美子	
庭山六郎	徳田浩一	64回 (28名)	清水雄伍	堀清忠	若林源基	湊勝	高山佳郎	96回 (1名)	
堀藤四郎	野村保夫	青野啓	寺井宏	松田裕子	75回 (23名)	湯本雅恵	山口虎彦	浜田恒平	
増田祐孝	長谷川秀三	岩淵道夫	西章	宮村達男	有蘭順子	渡辺春夫	横山修	99回 (1名)	
松井昭五	藤本剛	植村嗣音	前田康久	山下正文	五十嵐正	渡辺拓	84回 (8名)	君和田俊裕	
山口和郎	松尾克己	大石正晃	三堀浩	72回 (12名)	72回 (12名)	大野敏雄	大須賀郷子	100回 (1名)	
山城教成	宮田庄之助	太田健治	68回 (15名)	宇田川由美	笠井忠	笠井忠	瀬在昭弘	古川明久	
58回 (5名)	61回 (25名)	風間治雄	安達賢司	大野博	川上滋	川上滋	石川彰	107回 (2名)	

目標 800名!!

当同窓会の運営及び会報発行は、会員皆さまの「年会費」によって運営しています。年会費納付のご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。